CHUGAI
Roche ロシュ グループ

アニュアルレポート2020

2020年12月期

INNOVATION
BEYOND IMAGINATION

創造で、想像を超える。

中外製薬株式会社

目次

本編(本冊子)

中長期の価値創造ストーリー

01 編集方針

中外製薬について～メッセージ
02 ミッションステートメント
04 中外製薬の事業プロセス
08 この1年のトピックス
10 会長メッセージ
12 CEOメッセージ

中外製薬の価値創造
18 中外製薬の価値創造
20 歴史と共有価値
22 価値創造モデル
24 2030年に目指すトップイノベーター像
30 2030年を見据えた資本投下
32 ロシュとの協働について

指標とパフォーマンス
34 指標の関係性
36 財務・プレ財務ハイライト
40 領域別の概況
42 新製品開発状況

サステナビリティと成長戦略
44 サステナビリティと成長戦略
46 副会長メッセージ
48 執行責任者
50 マテリアリティの目標と進捗
54 主要なリスクと対応方針
56 成長戦略策定の背景
58 新成長戦略「TOP I 2030」
70 Focus:
CHUGAI DIGITAL VISION 2030／
中期環境目標2030
72 CFOメッセージ

コーポレート・ガバナンス
76 コーポレート・ガバナンスの強化
76 社外取締役メッセージ
90 取締役／監査役

会社データ
92 株式情報
93 会社情報

活動編(別冊)

短期の詳細情報

活動報告 各機能の特徴／新型コロナウイルス感染拡大への対応について／研究／開発／製薬／マーケティング／メディカルアフェアーズ／医薬安全性／信頼性保証／知的財産／人財／人権／環境・安全衛生／社会貢献活動／グローバルヘルス

基本情報 医薬品の基礎情報／がん領域／骨・関節領域、自己免疫疾患領域／腎領域／神経疾患領域／その他の領域

財務情報 連結経営指標等／経営成績および財務分析／事業等のリスク／連結財務諸表

将来見通しについて

このアニュアルレポートには中外製薬の事業および展望に関する将来見通しが含まれています。これらは、既存の情報やさまざまな動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあり得ます。

おことわり

このアニュアルレポートには医薬品(開発品を含む)に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝・広告や医学的なアドバイスを目的とするものではありません。文中の商標は商標権、著作権、その他の知的財産権により保護されています。

表紙について

世界の医療と患者さん一人ひとりの健康に貢献すべく、さまざまな創薬技術やサイエンス、そしてデジタル技術を駆使し、新たな希望を生み出していくという、中外製薬のイノベーションの姿を表現しました。

編集方針

対話を促進するための一冊と位置づけています。

本冊子は、統合報告(Integrated Reporting)として、株主・投資家の皆さまをはじめ、さまざまなステークホルダーの方々との対話を促進できるよう構成しています。特に2020年版については、情報構造・章立ての位置づけを明確にし、読者の皆さまの利便性と情報の充実を両立すべく、一貫した中長期の価値創造ストーリーを表す「本編」(本冊子)と、詳細な情報をまとめた「活動編」(別冊)の2部構成としています。皆さまとの価値共有の一助となれば幸いです。

対象組織：中外製薬株式会社および連結子会社の活動について報告していますが、一部は中外製薬単体について掲載しています。

対象期間：基本的には、当財務報告期間である「2020年1月～12月」を対象期間としていますが、最新情報を提供する重要性に鑑み、研究・臨床開発関連データなどについては、一部、2021年の情報も含みます。

掲載情報：本冊子の掲載情報は、中外製薬の短・中・長期の価値創造に対する重要度とステークホルダーへの影響度に鑑み、重要性の高い事項を掲載することとしています。

参考ガイドライン

本冊子では、統合報告の国際的なフレームワークである国際統合報告評議会(IIRC)の『Integrated Reporting〈IR〉』および経済産業省による『価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス』を参考に、中外製薬の価値創造に向けた報告に取り組んでいます。また、サステナビリティ情報については、環境省発行の『環境報告ガイドライン(2018年版)』、Global Reporting Initiativeの『GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード』、『気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)最終報告書』を参考にしています。

制作プロセスと社内利用について

8月～9月	10月～11月	12月～1月	2月～3月	4月～5月
事務局での企画設計 ・制作体制構築 ・コンセプト設計 ・企画構成骨子作成 ・ESG説明会実施・レビューヒアリング ・投資家ヒアリング	**企画案の検討・検証** ・経営陣との検討・検証 ・関係者ヒアリング ・マテリアリティの検証 ・構成コンテンツ・訴求メッセージの検討 ・社内各部門との調整	**コンテンツ作成** ・主担当役員(上野・板垣)によるコンテンツの確認・承認 ・リスクの検証 ・短・中・長期計画の進捗確認	**具体的誌面構成** ・メッセージ、構成要素、データ作成 ・経営陣・社外取締役インタビューによるメッセージ作成 ・各担当役員による誌面の検証	**最終化** ・主担当役員(上野・板垣)による最終確認・承認 ・制作部門での整合確認・精緻化 ・第三者視点でのレビュー

経営陣の参画

上記制作プロセスのうち、下線の項目は経営陣が参画しているステップとなります。特に、代表取締役副会長の上野幹夫(写真左)とCFOの板垣利明(同右)は、複数回のミーティングにて、コンセプト・構成・コンテンツ・デザインについて議論を行うとともに、完成まで責任を持つこととしています。また、記載内容については、代表取締役会長の小坂達朗と代表取締役社長 CEOの奥田修へのヒアリングと内容の確認を行っています。

社内責任部門

広報IR部を中心にサステナビリティ推進部を加えた事務局体制としています。これに加え、経営企画部、総務部、人事部を拡大メンバーとし、各本部・部門の担当者を設定し全社的な制作体制を構築しています。

社内での位置づけ

本冊子は社内認知度も高く、上述の通り、制作過程で部門責任者などとの議論を実施するほか、社員向け戦略共有会にて本冊子を紹介したり、新卒採用過程で使用するなど、幅広い用途で活用しています。

ミッションステートメント

存在意義 Mission

革新的な医薬品とサービスの提供を通じて
新しい価値を創造し、世界の医療と人々の健康に貢献します

価値観 Core Values

1. 患者中心/Patient Centric
   患者さん一人ひとりの健康と幸せを最優先に考えます
2. フロンティア精神/Pioneering Spirit
   自らを磨き、新たな発想で、イノベーションを追求します
3. 誠実/Integrity
   常に誠実な行動で、社会の期待に応えます

目指す姿 Envisioned Future

ロシュとの協働のもと、
独自のサイエンス力と技術力を核として、
患者中心の高度で持続可能な医療を実現する、
ヘルスケア産業のトップイノベーターとなります

中外製薬は、ミッションステートメント（=企業理念）を掲げ、すべての企業活動の根幹としています。この中で、「存在意義」（Mission）は、中外製薬の不変の最重要概念で、関東大震災後の薬不足を憂いた創業者が「世の中の役に立つ薬をつくる」と誓った「創業の精神」を受け継いでいます。「価値観」（Core Values）は、社員が共有し体現していく価値のことです。フロンティア精神を持ち、イノベーションの追求を続けながら、社会の期待や要請に応えるべく常に誠実であること。それによって、一人ひとりの患者さんに貢献していくことを明示しています。「目指す姿」（Envisioned Future）では、今後の医療を取り巻く環境変化を踏まえ、「製薬ビジネス」の枠組みを超えて、ヘルスケア産業の「トップイノベーター」を目指すことを掲げています。こうした「共有価値の創造」を通じたミッションステートメントの実現こそ、中外製薬の価値創造の姿であると考えています。

中外製薬の事業プロセス

イノベーション
創出の
核となる源泉

独自の
サイエンス・
技術力

ロシュとの
戦略提携

中長期視点

研究

世界屈指の創薬技術

16品目
開発パイプラインにおける
自社創製品数
（2021年2月4日現在）

67本*1
研究実績に関する
論文・学会発表数
（2020年）

5,366件
特許保有件数
（出願中を含む）
（2020年12月31日現在）

人財

ミッション実現の最大の資産

EHS（環境・安全衛生）、投資関連

中長期視点の一体マネジメント

ゼロ
2050年の
CO_2排出量
目標

2022年
次世代研究施設
「中外ライフサイエンス
パーク横浜」竣工予定

中期視点

臨床開発・製薬

充実したパイプライン

累計8回
Breakthrough Therapy
(画期的治療薬)指定*2
(2021年2月4日現在の累計)

54プロジェクト
パイプラインプロジェクト数
(2021年2月4日現在)

30件
新製品発売・適応拡大数
(2016-2020年)

14.6%
女性管理職比率*3
(単体在籍ベース)*4
(2020年)

109,580円
従業員1人当たり教育研修費
(単体在籍ベース)*4
(2020年)

194名
ロシュ人財交流プログラム
(2004-2020年)

2,547億円
過去5年設備投資額累計
(2016-2020年)

△17%*5
2010年比従業員1人当たりの
エネルギー消費量
(2020年)

*1 創薬・製薬関連の合計
*2 重篤または致命的な疾患や症状を治療する薬の開発および審査を促進することを目的に、2012年7月に米国食品医薬品局(FDA)にて導入された制度
*3 管理職に占める比率
*4 中外製薬株式会社(単体)の在籍者に基づいて算出
*5 国内中外製薬グループおよび海外研究・生産拠点

短期視点

ソリューション関連(マーケティング、メディカルアフェアーズ、医薬安全性)

確たるプレゼンス

国内No.1
抗体医薬品国内売上シェア(22.5%)*6

国内No.1
がん領域国内売上シェア(15.2%)*6

国内No.1
医療関係者からの満足度評価
(がん領域、100床以上)*7
(血友病領域)*8

国内No.1
安全性情報提供の充実度評価(100床以上)*9

製品・情報など

ソリューション活動により、各種情報を医療関係者・医療機関に提供。製品そのものは、医薬品卸を通じて提供

財務成果

成長性と収益性が評価

7,869億円
売上収益(国内No.5)*10
(2020年)

38.3%
営業利益率(IFRS)(国内No.2)*10
(2020年)

7.5兆円
時価総額(国内製薬No.1)*10
(2021年3月末時点)

*6 Copyright © 2021 IQVIA. 出典:医薬品市場統計 2020年暦年(1月~12月)をもとに作成 無断転載禁止 市場の範囲は中外製薬定義による
*7 インテージヘルスケア「オンコロジー領域CS調査2020」当社定義による医師を対象とした企業総合評価に関する調査結果に基づく
*8 インテージヘルスケア「血友病領域CS調査2020」当社定義による医師を対象とした企業総合評価に関する調査結果に基づく
*9 インテージヘルスケア「2020安全性情報ニーズ把握のためのアンケート調査」
*10 医薬品関連企業決算データ:中外製薬:2020年12月期、同業他社:2020年12月期および2020年3月期
注:「医薬品関連企業」とは、医療用医薬品の国内上場製薬企業、売上上位10社を対象範囲としています(武田薬品工業、大塚ホールディングス、アステラス製薬、第一三共、中外製薬、エーザイ、大日本住友製薬、塩野義製薬、協和キリン、小野薬品工業)

提供価値

医療関係者・医療機関

•疾患コントロール充実　•治療選択肢拡充

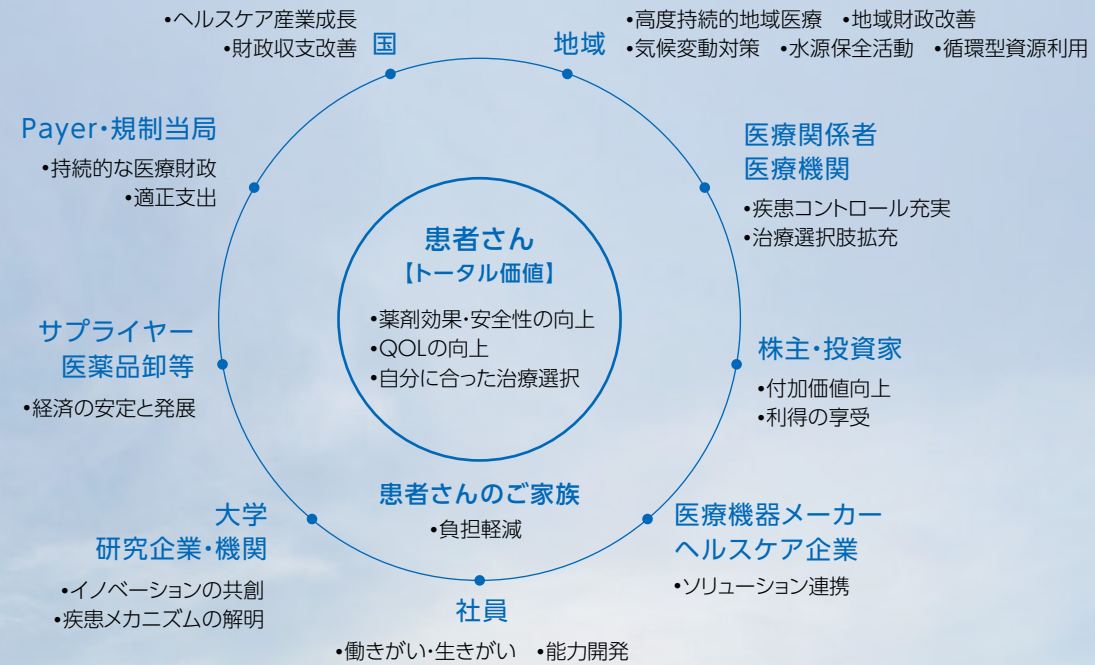
革新的な医薬品と高度なソリューションを通じて、疾患コントロールの充実と、治療選択肢の拡充が実現。なお、中外テリトリー（日本・韓国・台湾）以外の患者さんアクセスは、ロシュをはじめとするグローバル企業を通じて実施

患者さん

•薬剤効果・安全性の向上　•QOLの向上
•自分に合った治療選択

医薬品による直接的な薬剤効果や安全性の向上だけでなく、個別化医療を通じた最適な治療の提供や、早期診断や予後の改善なども含めたQOL向上に貢献

中外製薬は、患者さんを中心とする医療の中で、それぞれのステークホルダーと価値を共有しながら、「患者中心の高度で持続可能な医療の実現」を目指しています。



この1年のトピックス

世界初のスイッチ抗体をはじめ6品目がパイプライン入り

疾患部位で特異的に高濃度になる分子(スイッチ分子)の存在下でのみ標的抗原に結合するようにデザインされた、中外製薬独自の「スイッチ抗体技術」を適用したSTA551をはじめ、2020年は6品目がパイプライン入り。

アトピー性皮膚炎を対象に「ネモリズマブ」の国内承認申請、および適応拡大の取り組み

国内導出先のマルホ株式会社を通じて国内承認申請を実施(2020年第3四半期)。また、海外導出先のガルデルマ社が、米国FDAよりBT指定を受けている結節性痒疹に対する第III相臨床試験を開始。

リサイクリング抗体技術を適用した「エンスプリング」発売

視神経脊髄炎スペクトラム障害に対する新作用機序を有する薬剤として、日本および米国にて2020年8月に発売。独自技術により4週1回の皮下投与による利便性の高さが特徴。

血液検体を用いた、がん遺伝子パネル検査の承認を取得

組織の採取が難しいがん種にも対応可能な血液を用いた包括的ゲノムプロファイリング「FoundationOne Liquid CDx」を2021年3月に承認を取得。がんゲノム医療の進展を目指す。

FOUNDATIONONE® LIQUID CDx
がんゲノムプロファイル

新型コロナウイルス感染症拡大に対する研究開発

「アクテムラ」を使用した臨床試験を実施するほか、中外ファーマボディ・リサーチとA*STAR*[1]との共同研究、当該疾患の治療薬開発を目的としたイーライリリー社への抗体エンジニアリング技術導出などを実施。そのほか、開発品の国内導入として、リジェネロン社の抗体カクテル療法、ならびにアテア社の経口新薬候補品について、それぞれ日本における開発権および独占的販売権をロシュより取得。

*1 シンガポール科学技術研究庁

「CHUGAI DIGITAL VISION 2030」を発表・施策加速

さまざまなDX施策を進めると同時に、外部パートナーとの協働を強化。経済産業省と東京証券取引所が選定する「デジタルトランスフォーメーション銘柄(DX銘柄)2020」に医薬品セクターで唯一の選定。

DX銘柄2020 Digital Transformation　CHUGAI DIGITAL

パートナー(NGO)*[2]と協働でグローバルヘルスの取り組み推進

2020年2月にカンボジアにてチーム医療推進プログラムを開始したほか、7月にはミャンマー・ヤンゴン市で患者さん中心の質の高いがん治療実現を目指す取り組みを開始。

*2 当該カンボジアおよびミャンマーでのプログラムはそれぞれ特定非営利活動法人ジャパンハート、City Cancer Challenge Foundation(C/Can)と協働

世界的なESG投資指数「DJSI World」に初選定

2020年11月、中外製薬が持続可能性に優れた企業として評価され、全世界の医薬品企業の上位8社で構成される「DJSI World」*[3]の構成銘柄に初選定。

*3 世界の代表的なESG投資指数であるDow Jones Sustainability Indices (DJSI)の全世界版

Member of
Dow Jones
Sustainability Indices
Powered by the S&P Global CSA

新人事制度の策定・運用

2020年4月から、適所適財による役割と創出成果に応じた人事処遇を行う新人事制度を導入。従業員の自律的なキャリア開発とチャレンジを促進・支援。

新マネジメント体制での経営推進

新成長戦略を新たな経営体制で推進することを目的とし、2021年3月23日付で奥田が社長CEO、小坂が会長、上野が副会長となる新経営体制を発表。

2030年に向けた価値創造戦略の策定

2021年2月、2030年に目指す「ヘルスケア産業のトップイノベーター像」の具体的な姿と、その実現に向けた10年間の新成長戦略を発表。